



SVPインサイトVol.30

ヘルステック (バイタルセンシング・ウェアラブル端末)

～国内市場の現状と将来展望～

I. 市場の定義

ヘルスケア・医療の分野では、デジタル技術を活用する「ヘルステック」が活性化しています。主な領域として、「診断・治療」「遠隔診断・治療」「バイタルセンシング」「運動・健康管理」が挙げられますが、本レポートでは、「バイタルセンシング」を活用したウェアラブル端末を取り上げます。

ウェアラブル端末は心拍数、血圧、体温などのバイタルサインを日常的に計測し、健康管理や運動の記録に利用されます。市場をリードするスマートウォッチやスマートバンドは、心電図の取得や血圧測定などの高度な機能を提供しており、これにより早期疾患発見や健康状態の監視が可能です。また、非ウェアラブル製品(ベッドや自動車の座席に設置するシート状の製品等)の開発も進んでいますが、現在の市場はウェアラブル端末に集中しています。

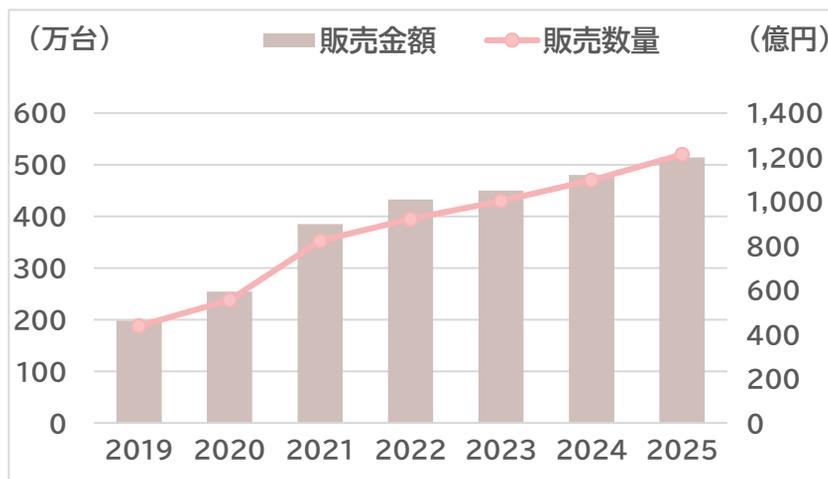
II. 市場動向

バイタルセンシングは、スマートウォッチやスマートバンドの主要機能として搭載され、市場の拡大を促進しました。2010年代に入り活動量計を搭載したスポーツ向けの製品が登場し、さらに2015年には、「Apple Watch」が登場したことにより、製品の認知度向上と、ヘルスケア用途への関心を一層高め、本格的に市場が拡大しました。近年では、AIの進展によりバイタルサインの精度が向上し、健康管理だけでなく運動管理にも利用されています。また、市場は個人向けだけでなく法人向けにも広がっており、大企業などによる一括購入や、健康管理サービスを展開する企業へのOEM供給もみられます。

III. 市場規模・予測

バイタルセンシングを搭載するウェアラブル端末の市場規模は、2022年に約1,010億円と推定されます。コロナ禍の影響で健康意識の高まりから大幅に成長しました。また、製品別では、スマートウォッチが市場の大部分を占めています。スマートバンド市場は一時停滞しましたが、スポーツやフィットネス需要に適したコンパクトで機能的な製品が増えたことで安定した需要が見込まれています。今後も市場は、年5~10%の成長が見込まれ、2025年には約1,200億円に達すると予測されています。技術の進化と共に、新たな健康管理の機能や多様な製品開発が進む可能性もあり、さらなる市場の拡大が期待されます。

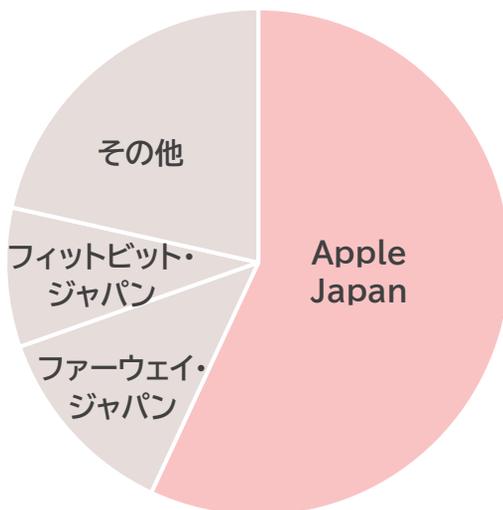
バイタルセンシング・ウェアラブル端末 市場規模推移



※メーカー出荷ベース。SVPジャパン調べ

IV. マーケットシェア

米国のApple(日本法人はApple Japan)は、バイタルセンシング機能を搭載した「Apple Watch」で市場の60%近いシェアを占め、市場拡大を牽引しています。一方、ファーウェイ・ジャパンなどの中国メーカーは低価格高機能製品でシェアを伸ばしており、フィットビットやガーミン、シャオミも競争に加わっています。スマートウェアの市場では、東レ/NTTグループや倉敷紡績などのシェアが高くなっています。



※SVPジャパン調べ

V. 参入企業の動向

Apple Japanは、スマートフォン市場で高いシェアを持つ「iPhone」との親和性と、ブランド力の高さからスマートウォッチ市場でも圧倒的なシェアを獲得しています。「Apple Watch」は、血中酸素濃度や心電図などの健康管理機能も搭載し、特にパンデミック中にその需要が高まりました。他社も追随しており、ファーウェイ・ジャパンは、比較的low価格な製品を投入し、シェア拡大を図っています。フィットビットやガーミン、シャオミ、サムスンもそれぞれ特色ある製品を投入し、健康とフィットネス市場で競争を繰り広げています。

VI. 業界構造

バイタルセンシング市場は、主にアメリカと中国の企業によって形成されています。日本の企業は、主に企業向けの市場に焦点を当てており、特に従業員の健康管理を目的としたサービスが中心となっています。また、市場は直販と小売業者を通じて展開されており、個人ユーザーと企業の両方に対応しています。

さらに、NTTPCコミュニケーションズや富士フィルムデジタルソリューションズなどは、バイタルセンシングのためのウェアラブル端末を外部から調達し、健康管理サービスを展開しています。





1分でわかる

SVP会員制 ビジネス情報サービス



1. ビジネス情報収集における環境の変化

環境の変化が激しく、将来の予測が非常に困難な時代に入

変化①

社会環境の変化



- ✓ 戦争の勃発
- ✓ 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行
- ✓ 気候変動



変化②

ビジネス環境の
変化



- ✓ テクノロジーの進化
- ✓ グローバル化
- ✓ 新世代の台頭
- ✓ 破壊的企業の躍進



組織的な課題に直面



2.企業が直面している3つの課題

これまで以上に、迅速で的確な情報収集・分析能力が求められています

1 幅広いビジネス 情報のアクセス

幅広い事象に関して、
スピーディーにアクセスできる
環境の整備



3 成長が期待される 新市場の動向把握

事業機会の可能性がある全ての
市場や企業動向を認識する
ケイパビリティの有無



2 質の高い情報の獲得 (重要領域での質の担保)

信頼できる上質な
ビジネス情報を収集できる
環境の構築



3.当社サービスが提供する価値



ビジネス情報に関する皆さまの課題を当社が解決いたします！

SVP会員サービス



解決① クイックリサーチ

I.

膨大なビジネス公開情報へアクセスし、スピーディーに最適な情報を提供

解決② プロジェクトリサーチ

II.

カスタム調査を通じて、質の高いビジネス情報と分析アウトプットを提供

解決③ SVPナレッジ

III.

当社が定義する、メガトレンドや注目市場の動向予測レポートを提供

年間契約で3つのサービスをご提供します



I. クイックリサーチ

活用シーン

- ・日々のリサーチ作業をアウトソースして、分析や戦略立案など付加価値業務に注力したい。
- ・ニーズに合ったビジネス情報を、スピーディーにわかりやすくまとめて提供して欲しい。

特徴

- ✓幅広いビジネス公開情報の活用
- ✓プロのリサーチャーによるニーズ把握と最大2時間の調査
- ✓わかりやすくまとめたレポートでご報告

納期 最短2日営業日以内

III. SVPナレッジ

活用シーン

- ・メガトレンドを中心とした、将来、事業に影響を与える環境要素は何か知りたい。
- ・①Z世代、②サステナビリティ、③テクノロジー、④新興国を含む海外市場、⑤破壊的企業の動向を把握したい。

内容

- ✓SVPメールマガジン
- ✓SVPインサイト
- ✓SVP注目市場分析
- ✓SVPトレンド調査

配信頻度 月1回以上

II. プロジェクトリサーチ

活用シーン

- ・公開情報では公表されていない、市場や業界、企業、消費者の情報収集がしたい。
- ・自社の事業領域に関する、質が高く、ニーズに即した情報を入手して、ビジネスに即活用したい。

特徴

- ✓広範なカスタム調査・分析
- ✓デスクリサーチ
- ✓ヒアリング調査
- ✓Webアンケート調査

納期 調査内容に応じて決定

5.導入実績



年間調査実施数
約15,000件



商用DBシステム利用
20システム



国内外企業財務情報
4,000万社以上



SVPネットワーク
世界40カ国の広がり

日本の売上高トップ100社中7割の企業でのご利用実績
導入企業600社以上





—SVP JAPANのサービスについて—

2営業日以内に調査結果をご報告

クイックリサーチ

[詳しくはこちら](#)

カスタムメイドのリサーチサービス

プロジェクトリサーチ

[詳しくはこちら](#)



—各種お問い合わせ—

資料ダウンロード

[こちらをクリック](#)



お問い合わせ

[こちらをクリック](#)



s'il vous plaît
SVP JAPAN
株式会社SVPジャパン

まずはお電話でもお気軽にお問い合わせください。

TEL : 03-3249-0771

